



# 黒住教 立教200年 記念特集 三大霊地・祭事編

# 「誠」尽くす祈りを捧げる

今年、立教200年を迎えた神道教団・黒住教には、三つの霊地がある。教団本部を置く岡山市の神道山、教祖誕生の地であり、立教の地である大元・宗忠神社(同市)、そして京都市の神楽岡・宗忠神社。大きな節目を迎えた奉祝行事とともに、気持ちも新たに「誠」を尽くす祈りが捧げられている。



神道山・黒住教本部神道大教殿



日本古来の神道は米作りとともに始まったといわれる。神道一派である黒住教の大教殿は農家を基本とした建築で、御本殿は神道の総本宮・伊勢神宮の古材が使われている。教壇は300畳の畳敷き。

## 一日の出迎える神道山

古来、人々に神山と崇められてきた吉備の中山。その南東部の神道山(岡山市北区尾上)に、黒住教の本部はある。緑濃く、すがすがしい空気に包まれた山の上では、毎朝、日拝所で六代教主らが日の出を迎え、日拝修行をつとめている。

壮大な日の出を求め、都市化の進んだ岡山市・大元から1974年に本部神道「大教殿」がこの地に遷座。敷地10万坪の丘陵地に、大教殿のほか、教祖宗忠を中心とする代々の教主の墓、信者の分骨墓「お道づれ生

族の墓がある「奥津城」があり、祈りの場となっている。

2008年に本部事務所が新たに竣工。教団機関誌の編集や書籍販売を手掛ける「日新社」や食堂「しんとくさん茶店」が入っている。「宝物館・まるこセンター」は、黒住教教典の原典である教祖の書き残した短歌や手紙、備前焼などの陶芸作品、絵画など世界的に活躍する芸術家から献納された作品を常設展示。会議場となるホールを併せ持つ。さらに宿泊施設「鶯鳴館」などを備える。

## 大元・宗忠神社

教祖宗忠誕生の地であり、立教の地である岡山市・大元、宗忠神社(同市北区上中野)が鎮座したのは1885(明治18)年。教祖宗忠をまつり、神道山に大教殿が建てられたから、岡山市民の氏神様的な神域として信仰を集めている。

境内には、教祖の住宅兼神道だった「教祖記念館」(18



大元・宗忠神社(岡山市)

## 神楽岡・宗忠神社

48年竣工)が立つ。教祖は建築に際し、信者に「できるだけ質素に」と要望したといわれ、在世中はここで教祖直々の祈りと説教が行われた。神道山に遷る前の大教殿は現在、「黒住教武道館」として親しまれている。



神楽岡・宗忠神社(京都市)

## 地域に息づく祭事

黒住教では神道山をはじめとする三大霊地において、さまざまな祭典や参拝行事を行っている。

神道山の毎年の主な祭りは、春の「教祖大祭」、夏の「天祓大祭」、冬の「冬至大祭」で、これら三大祭には全国各地から信者が参拝する。とりわけ冬至の日は教祖宗忠誕生の日で、悟りの境地を得た立教の日でもあり、冬至大祭は大変意義深い。また毎年秋には「遷座記念祝祭」がある。

毎年4月、大元・宗忠神社の「御神幸」は華やかな時代絵巻で、岡山の春の風物詩として知られる。御神体を載せた御風籠を中心に、古式ゆかしい装束を身に付けた約1000人の奉仕者が、宗忠神社から岡山後楽園までの往復約12キロを肅々と進み、世界の平和を祈る。同神社が鎮座した翌年に始まり、先の大戦で途絶えていたものが1952年に復活した。

今年立教200年を迎え、黒住教では2年前から記念の奉祝行事が続いており、本年秋に「大祝祭」を迎える。日本古来の神道の伝統を守る教派神道として発展してきた黒住教は、これからも日本の伝統と心を人々に伝えていく。



▲神道山・大教殿における冬至大祭



▲鶴見橋を渡る大元・宗忠神社の御神幸



立教二百年大祝祭 斎行  
10/11(土)、12(日)、13(月祝)、18(土)、19(日)、25(土)、26(日) 11/1(土)、2(日)、3(月祝)  
本祭典(各日)10時30分～

[本部] 〒701-1212 岡山市北区尾上神道山 TEL.086(284)2121 ホームページ / <http://www.kurozumikyō.com/>  
[大元・宗忠神社] 〒700-0972 岡山市北区上中野 1-3-10 TEL.086(241)0148 ホームページ / <http://www.munetada.jp/>

黒住教本部・神道山のお日の出

企画・制作 / 山陽新聞社広告本部